

合理的配慮検討における ICF-CY カテゴリーの活用

学校における合理的配慮の観点との適合性検討に基づいて

○堺 裕 (帝京大学福岡医療技術学部) 徳永亜希雄 (横浜国立大学教育学部) 田中浩二 (東京成徳短期大学幼児教育科)
 KEY WORDS: 合理的配慮 ICF-CY 適合性

(目的)

中央教育審議会初等中等教育分科会による「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(以下、中教審報告)においては、「障害の状態等に応じた『合理的配慮』を決定する上でICF(国際生活機能分類)を活用することが考えられる」と述べられている。ICFの活用には、ICFモデルとICFカテゴリーの活用が考えられる。ICFモデルは障害の実態把握などの枠組みとして活用されてきている。しかし、ICFカテゴリーの活用については、そのカテゴリー数の多さゆえに、活用する上での実用性が課題の一つとなっている。

そこで、われわれは、合理的配慮決定に向けた合意形成プロセスにおいて参考となるICF-CY(ICF児童版)カテゴリー(以下、カテゴリー)を明らかにするために、中教審報告で述べられている学校における合理的配慮の観点の内容とICF-CYとの適合性を検討してきた(堺他、2015)。

本研究の目的は、学校における合理的配慮の観点とカテゴリーの適合性に基づいて、合理的配慮決定におけるカテゴリーの活用について検討することである。今回は、「教育内容・方法」についての観点について報告する。

(方法)

学校における合理的配慮の観点との適合性検討の結果から得られたICF-CYカテゴリーを中教審報告に示された3観点11項目ごとにICFモデルに位置づけて、整理した。活動と参加の区別は上田(2005)を参考とした。心身機能・身体構造、活動と参加のカテゴリーは、障害の状態に関する記述部分と適合したものと合理的配慮を提供する際の留意点等に関する記述部分と適合したものに分けた。個人因子に関する記述部分についてもICFモデルに位置づけて整理した。

(結果)

「教育内容・方法」の「学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮」については、環境因子と個人因子のみが位置づけられた。その他の4項目について、適合したカテゴリーと個人因子に関する記述をそれぞれ図1~4に示した。

【健康状態】		
【心身機能・身体構造】 b1645 判断*	【活動】 d4 運動・移動** d7 対人関係* d177 意思決定*	【参加】 d7 対人関係*
【環境因子】 e5853 特別な教育と訓練についてのサービス	【個人因子】 認知の特性 発達の段階、年齢等	

* : 提供する際の留意点に関するもの
 ** : 障害の状態に関するもの
 図1 学習内容の変更・調整

(考察)

学校における合理的配慮の観点との適合性検討の結果から得られたカテゴリーをICFモデルに位置づけて、整理した。障害の状態に関するカテゴリーは少なく、障害に応じた合理的配慮を決定する際、カテゴリーを活用するためには、より詳細レベルのカテゴリーの活用や合理的配慮提供の具体例との適合性を検討することによる新たなカテゴリー

【健康状態】		
【心身機能・身体構造】	【活動】 d132 情報の獲得* d3 コミュニケーション*	【参加】
【環境因子】 e130 教育用の製品と用具 e1251 コミュニケーション用の支援的な製品と用具(福祉用具) e5853 特別な教育と訓練についてのサービス	【個人因子】	

* : 提供する際の留意点に関するもの
 図2 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

【健康状態】		
【心身機能・身体構造】 b2 感覚機能と痛み*	【活動】 d137 概念の習得*	【参加】 d8201 学校教育の履修** d8200 学校教育への就学・進学・進級* d8202 学校教育の内容の習得*
【環境因子】 e5853 特別な教育と訓練についてのサービス	【個人因子】	

* : 提供する際の留意点に関するもの
 ** : 障害の状態に関するもの
 図3 学習機会や体験の確保

【健康状態】		
【心身機能・身体構造】 b164 高次認知機能* b1645 判断* b152 情動機能*	【活動】 d1 学習と知識の応用* d3 コミュニケーション* d7 対人関係*	【参加】 d7 対人関係*
【環境因子】 e5853 特別な教育と訓練についてのサービス	【個人因子】 不安感や孤独感を解消し、自己肯定感を高める。	

* : 提供する際の留意点に関するもの
 ** : 障害の状態に関するもの
 図4 心理面・健康面の配慮

一の抽出の必要性が考えられた。また、障害の状態に関するカテゴリーだけでなく、合理的配慮を提供する際の留意点、例えば対人関係を広げたり、意思決定の機会を設けたりすることについて、カテゴリーを活用できる可能性が示唆された。

(文献)

- 堺裕他(2015)学校における合理的配慮の観点と国際生活機能分類-児童版(ICF-CY)の適合性に関する予備的検討。帝京大学福岡医療技術学部紀要 10, 23-31.
- 上田敏(2005)ICF(国際生活機能分類)の理解と活用-人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか。きょうされん。(SAKAI Yutaka, TOKUNAGA Akio, TANAKA Koji)